



試合中の様子。奥が笠井君



交換留学生のエディーと



エディーと部員たち



Portrait

ポートレート

かさい ひかる
笠井 光君 システムデザイン・マネジメント研究科修士課程2年

「留学生を体育会に入れて、共に活動するシステム」を模索中

慶應義塾高等学校と大学の体育会でフェンシング部の主将を務めた。ある日、理工学部へ交換留学で来るベルギーの学生から、フェンシング部に入りたいとメールが届いた。前例はなかったが、受け入れた。共に練習し、食事を楽しみ、試合にも出た。帰国時、彼は「チームへの所属意識やチームメイトとの関係に、こんなに強い感情を抱いたのは初めて。単なる留学生じゃなく、自分を慶應ボーイだと感じた」と言い残した。そこでひらめいた。留学生が体育会を経験すれば、大学生活をより深く知り、義塾に愛着を持ち、ひいては日本の国際的な理解につながる、と。現在、留学生を体育会に入れるシステムの開発に取り組んでいる。「実現に向けて、試行錯誤の日々です。応援をよろしくお願いします」